

ま え が き

本校の「高校教育研究」は、昭和26年に創刊された。創刊号から第7号までは、主として毎年本校が主催した高校教育研究協議会の成果を集録したものであったが、昨年度から研究協議会を中止したため、本誌を本校の研究紀要にきり換えることにした。したがって、本号は研究紀要として再出発してから第2年目のものである。

高校教育にたずさわる者の研究が、担当教科に関する専門的研究と、教科教育法や生活指導に関する教育技術的研究の二つの分野にまたがらなければならないことは、いうまでもないであろう。したがって私どもは、個々の教官の自由研究たる、教科に関する専門的研究あるいは教育法的研究と、補導部と研究部の共同研究たる、本校の生活指導・道徳教育計画をうちたてるための基礎調査をもって、本号を構成した。

私どもは高校教育においても、教科に関する専門的・学問的研究を出来るだけ重視したい。改めて指摘するまでもなく、たえず旺盛な研究意欲をもちつづけ、学なる教材研究の域をこえて、自己の専門とする学問の研究を継続する教師が、生徒の学習意欲を振いたたせ、大きな指導力を発揮し得るからである。私どもが本号を、教科教育や生活指導に関する教育技術的研究に限定しなかった理由も、この点にある。しかし、本号に発表した諸論文がどの程度の学問的水準を示しているかは、専門を異にしている私の云々すべきことではなく、専門家の評価と批判に俟つほかはない。

補導部と研究部の共同研究たる「本校生徒の余暇利用について」と、「本校生徒はどのように考えているか」についての調査は、昨年11月、東京教育大学付属高等学校において開催された、全国国立大学付属学校連盟高等学校部会の研究協議会に提出・発表したものであるが、生活指導や道徳教育のための基礎調査としてはその一断片にすぎず、また調査方法の面においても未熟な点が少なくないであろう。しかし私どもは、今後、生活指導の各分野にわたって、実践に即した研究調査を継続・拡充して、本校の生活指導の万全を期したいと考えているので、関係各方面の諸先生の御指導・御鞭撻を切にお願いしたい。

(1958. 3. 5)

神 力 甚 一 郎